

みたか国際化円卓会議第 13 期 第 5 回会議録要旨

日 時	令和 7 年 1 月 30 日（木）18：30～20：00
会 場	三鷹市教育センター 2 階 第二中研修室
出席者	委員 10 名（欠席委員 4 名）、事務局 6 名、三鷹国際交流協会事務局長、防災課 2 名、Mitaka みんなの防災 1 名（傍聴者なし）
【当日配布資料】 （資料 1）ワークショップ資料 （資料 2）第 4 回会議録要旨 （資料 3）第 13 期提言（案） （資料 4）第 13 期委員名簿	

【記号について】

・	委員の発言
→	事務局の発言

【議事内容】

1 外国語版防災ガイドブックについて（ワークショップ）

→第 13 期では、外国籍市民の生活支援に関するものを作成するというテーマで話し合いを進めている。最終的には非常時・災害時に特化したものを作成するという話になったことを踏まえて、災害時に役立つガイドブックを作成することが決定し、会議を進めてきた。ガイドブックは、令和 7 年度以降に市が作成する。第 13 期では、ガイドブックに掲載すべき内容を提言としてまとめていただく。今回の会議では、ワークショップを通して、外国語版防災ガイドブックに掲載すべき内容について、たくさんの意見を出していただきたい。

→（防災課）自助・共助・公助の説明

→本日のワークショップの大きなテーマを、「外国籍市民にとって重要だと思う防災情報」とし、各グループでは 3 つの視点のうち一つを選んで話し合いを進めていただきたい。

- （１）三鷹市の防災ガイドブックで知りたい情報
- （２）災害時に直面しそうな問題
- （３）日本での文化や生活習慣の違い

【以下、各グループの発表内容】

グループ A（サンジーワさん）：テーマ（１）三鷹市の防災ガイドブックで知りたい情報

- ・地震の時にどのような行動を取れば良いか。例えば、机の下に隠れるなど。
- ・日頃から備えておくべきものは何か。
- ・避難の流れを知りたい。例えば、地震発生時はテーブルの下に隠れてから、避難所へ向かうなど。
- ・身体を温めるためにはどうしたら良いか。
- ・病院の情報について
- ・災害時に近づいてはいけない場所について
- ・外国籍市民が母国語で会話が出来る場所や外国語が話せるスタッフが待機している場所
- ・避難所などで受けられるサポートの内容について
- ・非常食の作り方について

- ・大雨の警戒レベルについて
- ・ガイドブックの内容はシンプルアンドイージーであるべき。

グループB（坂本さん、MISHOP）：テーマ（3）日本での文化や生活習慣の違い

- ・自助、共助、公助を外国籍市民は理解できていないのではないかな。
- ・子どもは学校で避難訓練などを経験するが、大人は経験する機会がないため、そのような機会を作るべき。運転免許証の更新時などに訓練の時間を設けるなど。
- ・三鷹市では災害時に無事を示す「黄色のタオル」があるため、それを掲載したら良いのではないかな。
- ・日本人と外国籍市民とでは避難所での過ごし方に違いがあると思う。
- ・外国籍市民のなかには、避難所で靴を脱ぐことについて驚く人もいるかもしれない。
- ・避難所で指示を出してくれる方に対して、なかなか簡単には従えない場合もあるのではないかな。
- ・日本人独特の「空気を読む」というのが難しいかもしれない。
- ・「防災」について学ぶ機会が少ないことが日本人と外国籍市民の大きな違いだと思う。

グループC（友部さん）：テーマ（2）災害時に直面しそうな問題

- ・噂や正確でない情報に惑わされて、誤った行動を起こす問題が発生するのではないかな。
- ・ペットの問題（一緒に避難できるのか、餌はどうするべきか）
- ・避難所で用意されている食事を宗教的な問題や体質によって食べられない場合があるのではないかな。
- ・精神的な問題（地震の経験がないため、不安になる等）があるため、相談できる場所があるべき。
- ・災害時では、混乱する市内でどこに逃げるべきか。
- ・スマートフォンが使えない場合に公衆電話で電話をするために、避難所ではテレフォンカードを備蓄するべきだと思う。
- ・避難所では外国語の案内がない場合もあるのではないかな。
- ・災害時には病院が閉まるため、怪我や病気の時には混乱すると思う。

（ワークショップ発表終了）

→各グループの発表を踏まえて、考えたことなど自由にご意見をいただきたい。

- ・大雨の状況を色別で示すものをつくり、コミュニティセンター等の目立つ場所に目印として掲げたら良いと思う。
- ・運転免許の更新の時に防災の訓練等の時間を設けるという意見に賛成する。
- ・避難所に設置するのは共同のお風呂だと思うが、外国籍市民は入ることができないと思う。個別シャワーブースを設置したら良いと思う。
- ・外国人は日本に来ると日本の文化である「温泉」を経験したいと思うので、共同のお風呂は問題ないのではないかな。
- ・私の場合は、今は共同のお風呂に抵抗はないが、昔は抵抗があった。
- ・外国籍市民は、日本に住むということを決めたのだから、私たちにも責任はあると思う。災害時にどのような状況になるのかを伝えて、外国籍市民は自分たちも災害に向けて準備をする行動

をとるべきだと思う。

→（MISHOP）自助の部分をガイドブックに掲載するべきだと思う。避難所へ行けば全ての問題が解決できると考えるのは良くないので、自分の家で過ごすとしたらどのようなものがかなどの情報を伝えられたら良いのではないか。

2 第13期提言（案）について

→資料3をもとに説明

・外国籍市民へ向けた情報を紙ベースで作成することも大切だが、様々な情報を集約してQRコードで読みとれば情報を得られるような仕組みを作れたら良いと思う。例えば、駅などにQRコードを設置したら多くの外国籍市民が活用できるのではないか。

・円卓会議の委員に東南アジア系の国籍の方に入っていただくと良いのではないか。

→円卓会議の外国籍市民委員は、公募により決定している。どこかのコミュニティに声をかけ、応募を募ることもできると思うので、検討したい。

3 次回日程など

→第13期では、前半に人権条例について話し合い、後半では、防災ガイドブックについて話し合いを進めた。今日は、防災課とNPO法人みんなの防災から職員が来ているので、一言ずつお願いしたい。

→（防災課）皆さんからいただいたご意見を防災ガイドブックに反映できるように努める。私は、防災の分野に関しては外国籍市民と日本人の間で共通のものがあると思っている。その点は抑えつつも、それらのちょっとした違いなどに着目していき、防災の基本を捉えるガイドブックの完成を目指したいと思う。

→（みんなの防災）今日のご意見で出た「シンプルアンドイージー」はとても重要な視点だと思う。今日は日本語の防災ガイドブックを複数種類持参した。ガイドブックには様々な形、サイズがあり、工夫がされている。これらを参考に、皆さんの考えるボリューム感やデザインのイメージについてご意見をいただきたい。

→本日いただいたご意見を反映させた報告案を作成し、でき次第メール等で送付するので、内容のご確認をお願いしたい。その後、案を確定させる第6回円卓会議を3月中に開催する予定である。

以上